



時事評論家 増田俊男

アメリカの内紛が世界紛争の原点

オバマ大統領は、建国以来アメリカを主導かつコントロールしてきた勢力と戦う為に選ばれた大統領である。そして又トランプ大統領も同じ使命の為に選ばれた。オバマ大統領は身の危険を知らずながら任期が終わる直前に IS(イスラム国)撲滅を米軍ではなくプーチン露大統領に頼んだ。

IS(イスラム国)は 2005 年イラク北部に卓越したカリスマ性を持つバグダーディを指導者に据えて作られたスンニ派過激武装集団である。

2001 年の同時多発テロ 9/11(セプテンバー・イレブン)以来ブッシュ大統領はテロとの戦いに突入したがアフガンもイラクも国連に加盟している国家だから国連安保理の承認を得るか国際世論の支持を得ない限り軍事行動を執ることが出来なかった。

従ってアフガンは 9/11 の犯人に仕立てたビン・ラーディンを匿ったことにし、イラクはサダム・フセイン大統領を極悪・非道な悪魔に仕立て上げ国際世論の支持を得て軍事行動を執った。イランが支持する軍事組織ヒズボラやハマスは国家ではないから自由にイスラエルや米軍に攻撃を仕掛けてくる。

そこでアメリカとイスラエルは国を名乗るが国ではない IS に資金と兵器を与え兵士の訓練を行い 10 年かけて中東最大の軍事組織に育て上げ、アメリカが目指すシリア政権撲滅の為に戦わせた。アメリカがシリアを空爆するにはシリアが化学兵器を使用したように工作しなくてはならなかったように軍事行動は極めて制約された。

一方ロシアはシリアと安全保障条約を結ぶ同盟国だからシリアにおける軍事行動の自由がある。自由に戦えるロシア軍と国がなく神出鬼没のイラン民兵ヒズボラ等に支えられたシリア政府軍とアメリカ支援の IS との戦いは当然のことながらシリア政府軍の勝利に終わった。

イランのロウハニ大統領が 11 月 21 日 IS の滅亡を宣言したことで IS の撲滅は確かとなった。

米軍と CIA はオバマ大統領の IS 撲滅宣言にも関わらず IS を支援し続けたが、トランプも中東の米軍に IS 撲滅命令を出してはいたが、実際はロシア・イランが IS を撃滅した。オバマ大統領が IS 撲滅をロシアに依頼し、トランプ大統領もそれを容認したのは、IS は両大統領の敵であるペンタゴン、CIA、CNN 等マスコミの合体である軍産複合体の傀儡だから。11 月 24 日シナイ半島(エジプト)で IS によるテロで 300 人以上が犠牲になった。エジプトのシーシ大統領は IS 撲滅を誰に頼むだろうか。アメリカかイランか。イランならトランプ大統領は敵の軍産複合体に勝利しつつあることになる。

本年最後の「小冊子」Vol.94 は「見えない真実」で 2018 年を大予測することにした。

増田俊男の「ここ一番！」大好評配信中！

現在、増田俊男の「ここ一番！」を FAX 又は e-mail にて配信しております。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S.リサーチジャパン(株)Tel：03 3956-8888、HP：www.chokugen.com まで。

【最近の配信履歴】

- 11月22日(水) No. 767 FRB 資産縮小 11月第二週
- 11月17日(金) No. 766 FRB の総資産発表
- 11月15日(水) No. 765 下げ相場だが、、、
- 11月10日(金) No. 764 上げ相場は終わった

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313) までお知らせ下さい。